

## アジアの規制緩和と資本流入

マレーシアが外資導入を促進するため規制緩和策を打ち出した。特に多数を占めるマレー民族の優遇政策を改め、より公平で競争的な条件を整える。

マレーシアは40年前に民族暴動が発生したのを契機に、経済的に豊かな中国系民族に対して格差を是正するためマレー民族の優遇策を採ってきた。その結果、一定の成果を上げたのと、現在の経済金融危機で資本や技術の不足が露呈して、政治的にも変革の必要に迫られた。

マレーシアと言えばマハティールが首相時代にアジア通貨危機が起こり、その原因を巡ってソロスと論争したことが有名だ。マハティールは、ソロスに代表されるヘッジファンドが、市場の成熟していないアジア諸国に、短期に巨額の資金を出し入れしたことが原因だとソロスを非難した。これに対してソロスなどヘッジファンドは、アジア通貨危機の原因を市場の発展を阻害する規制緩和策を採るアジア諸国の政府にあるとした。

ソロスはその後マハティールの見解に理解を示すようになるが、マハティールは一層厳しい資本規制を導入した。通貨制度も固定相場制にしてしまった。

その後、マレーシアはアジア通貨危機で渦中に巻き込まれなかった中国の通貨政策を参考にした。中国が固定相場制から管理変動相場制に移行するとマレーシアもそれに倣った。

今回の金融経済危機で米国、欧州などの先進諸国は、金融機関や金融商品などに対して規制を強める傾向にある。一方アジアは総じて規制緩和のプロセスにある。中国でも人民元の介入は強化しているものの、資本流出の緩和など全体としては規制緩和の流れにある。

米国のミューチュアルファンドのデータによれば、米国の投資家は先月あたりから海外への資産分散を始めたようだ。こうした中でアジアが有力な投資先になることは確かだ。アジアは中国が崩れない限り、資本やモノが向かい続ける。